

## 2014年省エネグループ事業概要・期待する効果

### 1. エコライフスタイルの普及啓発

川崎市内の小学校児童を対象として、7日間、エコライフカレンダーを記入することにより、地球温暖化への関心を高め、日常生活で身近にできる省エネルギーや節電を実践してもらうもので、児童を通じて一般家庭に広くエコライフスタイルを浸透させることを目的とする

従来からの夏休みに実施する「夏休みのエコライフ・チャレンジ」と今年度よりそれ以外の時期にも学校が自由に実施できる「エコライフ・チャレンジ」を行う。

#### (1) 「夏休みのエコライフ・チャレンジ」

小学生に夏休み中に省エネ・節電を実行することによりエコライフスタイルの普及啓発を行うもので、10年目を迎える「夏休みのエコライフチャレンジ」は、少しずつ学校に浸透してきており、「夏休みのエコライフチャレンジ」は一つのブランドとして定着しつつある。(2010年低CO2川崎ブランド 市民活動部門に認定)

7日間だけのエコライフの実践ではあるが、毎年「楽しかった」、「大変だったけど楽しかった」で76%を占める児童の感想と、保護者の「我が家の省エネや節電の実践のいいキッカケになりました。これからも続けていきたいです。」という感想が圧倒的に多いことから、家庭に省エネ意識の浸透が図られていることがうかがえる。今年度からは、CO2削減効果をよりきちんと発表し、また、実践した児童自身で自己評価ができるようにするなど内容を進化させる。一方実施結果はもっと活用しアピールするようにしたい。

事業内容は、①実施校アンケートによる希望校選定、②実施希望校への「夏休みのエコライフチャレンジ」パンフ送付、③実施希望校フロー、④「夏休みのエコライフチャレンジ」実施、⑤実施結果の集計及び学校別報告書作成、⑥学校個別訪問と報告

#### (2) 「エコライフ・チャレンジ」

今年度より夏休み以外の時期に自由に行える「エコライフ・チャレンジ」を新たに実施する。今年度は主に秋の出前授業実施校に対し学習したことを実践するエコライフを促すツールとして活用する。実施は学校の授業などのスケジュールに自由に任せるが、冬休みを想定したチャレンジメニューなどを作成し、集計はより簡易版とする。

①両チャレンジの今年度動員目標 2,000名を目指す。

「夏休みのエコライフチャレンジ」 1,000名

「エコライフ・チャレンジ」 1,000名

②回収したアンケート・データを活動のPRに使う

(3) イベント参加時に得られたデータを利用してパネル展示等行う。

(4) 出前授業と連動することによりエコライフの重要性の理解がさらに深まる。

(5) CO2の削減量を定量的にとらえることができる。

## 2. 出前授業による普及啓発

2010年度から本格取組みを初めて、2011年度には順調に軌道に乗り始めた。2013年度は主に小学5年生に対し、延べ23校の小学校で2200名以上、69クラスに実施することができた。プログラムも徐々に増え、今では4プログラム体制になり、学校が選んだプログラムで講義を、講義の内容をより深く理解してもらうように、手作りの発電体験用グッズでの体験も併用して行っている為に、子ども達には節電・省エネの大切さを実感してもらっていることが、アンケートからも十分にうかがえている。

更に、自治会・町内会での環境学習会もセンターと共同で取組み、大人に対して直接、節電・省エネ等の啓発活動に取組むことができた。

2014年度以降については、今までの取組みを継続し、更に進化させて取り組んで行く。

### ① 小学校

- (1) プログラムの内容を常に見直し、最新情報を取り込みリニューアルしていく。また、**新しいプログラムの開発にも取り組むと同時に、新しい体験のグッズも開発していく。**
- (2) **学校とのコンタクトの方法は、希望調査アンケートが学校に届いた時期に、過去の実績校、実績ある先生（転校先もフォロー）へ電話でコンタクトを取り、依頼する。**
- (3) 年間を通じて、均等に実施できれば、もっと多くの学校を受け入れられるが、どうしても総合学習の中で環境学習に取り組む最初の取っ掛かりに外部講師を要請する状況にあり、ある時期に重なってしまうのが、残念です。その中でも当面は、**市内113校の25%（平成25年度23校+5校）の学校**での出前授業を目標に取り組んでいくが、学校との信頼を高めながら、実施時期の分散化・実施校の増加の可能性を模索していく。
- (4) 出前授業後の子ども達のアンケートの依頼及びその分析・報告書作成も継続し、アフターフォローとして学校へ報告していく。
- (5) **企業・他団体との出前授業の連携**の可能性を模索する。実現できれば、共同で、または依頼を受けて単独で実施することも視野に入れて活動する。

### ② 中学・高等学校

中学生、高校生には、体験型よりは、講義型の方が適していると考え。この場合には講師1~2名で対応できるので、実現すれば実施校を増やすことが可能となるので検討して行きたい。

プログラムの内容の中~高校用に高度化し、45分間プログラムを新規に開発する。と同時に、中学・高校へアプローチをする。

### ③ 町内会・自治会の出前講座

CCセンターとの連携による省エネ・節電の出前講座を行う。内容は時勢に応じ適宜検討する。

## 出前授業の期待効果

- ① 総合時間の環境学習での考えるキッカケ作り
- ② 出前授業をキッカケにして自分たちで学習・調査した内容を学習発表会（文化祭）で、全校生・保護者の前で発表し、多くの人に伝える効果
- ③ 地球温暖化を理解して、節電・省エネの生活習慣が身に付く効果
- ④ 発電体験により、理解力がアップする
- ⑤ プログラムのフレキシブル化

事前打合せの実施で、学校の要望を確認し、基本プログラムの中に、要望内容を取り入れ、学校個別のプログラムにして取り組んでいる

⑥学習内容を通して、家族が話し合う機会が出来る（アンケートに表現されている）。即ち、子ども達を通して家庭（大人）へ節電・省エネ行動の普及・習慣化に繋がって行く

⑦自分で取り組むエコを考え、行動に移すキッカケになる（アンケートより）

⑧アフターフォローの実施

アンケートを分析し、報告書を作成し、後日学校へ報告することで、環境学習の成果の一助になっている

⑨自治会・町内会で直接大人に対して意識啓発や具体的な省エネ方法の広報が出来る。

### 3. イベント参加による省エネ意識啓発

市内各所で行われる環境イベントに積極的に参加し、「省エネ・節電」の意識啓発や具体的な省エネ方法などについて広報して行う。

市民に対する省エネ意識の普及啓発

### 4. スキルアップのための企画活動

(1)省エネ関連企業や機関から講師を招き、講座を開催し新情報や知識を学習する。

(2)外部講師による講演会を1回/年開催する。

グループ員のスキルアップと市民の省エネ意識の向上とグループ活動員の増加

### 5. 広報活動

省エネの普及啓発のために機会を捉え、よりわかりやすい広報活動をする具体的には、

(1)「省エネ通信」発行、

(2)省エネグループホームページのリニューアル、

(3)「省エネグループの歩み」作成、

(4)省エネグループ紹介ポスター・チラシ作成・配布

活動内容を広く知らせることにより活動への参加者増加も図る

## 省エネグループ組織 (2014.1.4)

